

# サステナビリティレポート

## SDGsハイライト

Sustainability Report —SDGs Highlight—

安心・安全で  
持続可能な社会に向けて



# あらゆる企業活動を通じて、 “安心・安全で持続可能な社会” の実現に向けて取組んでまいります

代表取締役社長  
清水 博



## 変化を積極的に取込み、 お客様と社会に誠実に向き合う

当社は1889年7月4日の創業から今日にいたるまで、「共存共栄」「相互扶助」の精神にもとづき、国民生活の安定と向上に寄与すべく、堅実な経営に努めてきました。

一方、現在社会を取巻く環境は、人口減少や高齢化の進展、超低金利の継続、デジタル化や先端ITの急速な展開など構造変動の最中にあります。加えて、貧困や格差、気候変動、ジェンダー平等など、深刻で多様な社会課題が顕在化しています。

これらの環境変化を広い視野で捉え、様々なステークホルダーの声に耳を傾けていくことで、私はむしろ、

この変化を積極的に取込み、お客様と社会に誠実に向き合っていきたいと考えています。

## 生命保険とSDGs

2015年に国連総会でSDGs(持続可能な開発目標; Sustainable Development Goals)が採択されました。これにより、「誰一人取り残さない」という考えのもと、地球規模の課題を、2030年までに国際社会全体で解決していこうという潮流ができましたが、このSDGs達成には企業の役割が不可欠です。

SDGsには17の目標が掲げられていますが、例えば1つ目の目標は「貧困をなくそう」です。

生命保険は、社会的に弱い立場の人を生まないための助け合いの仕組であり、国内外への生命保険の普及は「貧困や格差をなくす」というSDGsの目標に一致します。当社が、創業以来、脈々と継承し発展させてきた活動は、SDGsが目指す社会を実現する活動そのものだと考えています。

## 持続可能な社会づくりに向けて

当社は、お客様のニーズが多様化する中、生命保険はもとより様々な商品・付帯サービスを提供しているほか、お客様へのサービス体制の充実、ESG投融資の拡大、子育て支援や高齢社会対応、健康増進支援、地域振興支

援など、様々な形で社会的役割を果たしています。

2018年度には、昨今の社会情勢や事業環境の変化もふまえ、18項目の「サステナビリティ重要課題」を特定するとともに、当社ならではの新たな価値を創造する観点から、「SDGs達成に向けた当社の目指す姿」を設定しました。

当社は、この18項目の重要課題に、7万人の全役員・職員が一丸となって取組むことで、SDGs達成に貢献するとともに、ステークホルダーからの多様な期待に応えてまいります。

今後も、150年、200年そして未来永劫にわたり人々がより良く生きることを支えるため、お客様をお支えし、地域・社会とともに発展し、安心・安全で持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



サステナビリティレポート  
— SDGsハイライト —

# CONTENTS

## 01

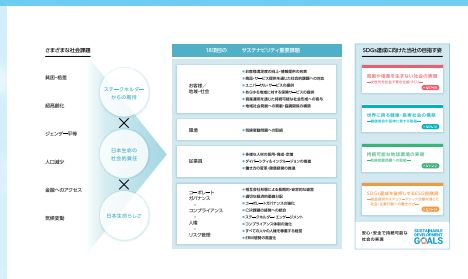
トップメッセージ



## 03 目次／編集方針

## 05

日本生命におけるサステナビリティ経営  
— 持続可能な社会づくりに向けて —



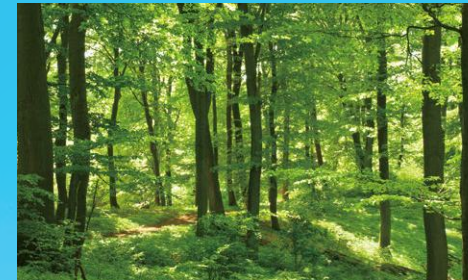
## 07

貧困や格差を生まない社会の実現  
— 次世代を社会で育む仕組づくり —



## 09

世界に誇る健康・長寿社会の構築  
— 健康寿命の延伸に資する取組 —



## 11

持続可能な地球環境の実現  
— 気候変動問題への取組 —



## 13

SDGs達成を後押しするESG投融資  
— 資金提供やスチュワードシップ活動を通じた  
社会・企業行動への働きかけ —

## 15

サステナビリティ経営の根底に流れる  
共存共栄・相互扶助の精神を受け継ぐ社会貢献活動

## 17

公益財団法人を通じた社会貢献活動

## 19

主なステークホルダー・推進体制／SDGs(持続可能な開発目標)とは

## 21

社外からの評価／会社概要

### 編集方針

当冊子は、安心・安全で持続可能な社会の実現に向けた当社の取組について、様々なステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えすることを目的に作成しております。

記載内容の詳細につきましては、オフィシャルホームページ「サステナビリティ」をご覧ください。

日本生命保険相互会社オフィシャルHP「サステナビリティ」

<https://www.nissay.co.jp/kaisha/csr/>

「サステナビリティレポート2019」(PDF) ※ 当社オフィシャルHP「サステナビリティ」のうち、年次報告部分をPDF化したものです。

<https://www.nissay.co.jp/kaisha/csr/library/>

■ 報告対象組織：日本生命保険相互会社

■ 報告対象期間：

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)

※ 一部、対象期間外の活動内容を含む

■ 参考にしたガイドライン等：

・GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード2016

・ISO26000(社会的責任に関する手引)

・環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

■ 発行：2019年11月

# 日本生命におけるサステナビリティ経営 ― 持続可能な社会 づくりに向けて ―

現代社会において、企業やステークホルダーを取巻く環境は絶えず変化しており、社会課題は多様化・深刻化しています。このような時代において、ステークホルダーからの期待にお応えし、日本生命らしい価値を提供すべく、18項目の「サステナビリティ重要課題」を特定しました。

当社はこの「サステナビリティ重要課題」への取組を通じ、安心・安全で持続可能な社会の実現に向け、

あらゆる企業活動においてバリューチェーン全体を通じて取組んでまいります。

また、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けては、「貧困や格差を生まない社会の実現」「世界に誇る健康・長寿社会の構築」「持続可能な地球環境の実現」の3つのテーマとESG投融資に特に重点を置き、取組んでまいります。

## さまざまな社会課題

貧困・格差

超高齢化

ジェンダー平等

人口減少

金融へのアクセス

気候変動

ステークホルダー  
からの期待

日本生命の  
社会的責任

日本生命らしさ

## 18項目の

## サステナビリティ重要課題

お客様／  
地域・社会

- お客様満足度の向上・情報提供の充実
- 商品・サービス提供を通じた社会的課題への対応
- ユニバーサル・サービスの提供
- あらゆる地域に対する保険サービスの提供
- 資産運用を通じた持続可能な社会形成への寄与
- 地域社会発展への貢献・協調関係の構築

環境

- 気候変動問題への取組

従業員

- 多様な人材の採用・育成・定着
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- 働き方の変革・健康経営の推進

コーポレート  
ガバナンス

■  
コンプライアンス

■  
人権

■  
リスク管理

- 相互会社形態による長期的・安定的な経営
- 適切な経済的価値分配
- コーポレートガバナンスの強化
- CSR課題の経営への統合
- ステークホルダー・エンゲージメント
- コンプライアンス体制の強化
- すべての人々の人権を尊重する経営
- ERM態勢の高度化

## SDGs達成に向けた当社の目指す姿

貧困や格差を生まない社会の実現  
— 次世代を社会で育む仕組みづくり —

▶ P.07-08

世界に誇る健康・長寿社会の構築  
— 健康寿命の延伸に資する取組 —

▶ P.09-10

持続可能な地球環境の実現  
— 気候変動問題への取組 —

▶ P.11-12

SDGs達成を後押しするESG投融資  
— 資金提供やスチュワードシップ活動を通じた  
社会・企業行動への働きかけ —

▶ P.13-14

安心・安全で持続可能な  
社会の実現

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



# 貧困や格差を生まない社会の実現 一次世代を社会で育む仕組づくり

今日の日本において、7人に1人の子どもが相対的に貧困な状態<sup>\*</sup>にあり、次世代への連鎖が社会課題となっています。

当社は、創業以来、相互扶助の仕組である生命保険の普及を通じて社会のセーフティーネットの役割を担い、国民生活の安定と発展に寄与するべく努力を続けてきました。

今般、生命保険業の成り立ちに立ち返り、

あらゆる人々が活躍できる社会の実現に貢献すべく、

「貧困や格差を生まない社会の実現」をテーマに掲げました。

実現に向けて、次世代を支える人たちを

社会全体で育む仕組づくりに取組んでまいります。

※【出典】平成28年国民生活基礎調査

## 社会の セーフティー ネットの 構築

- 関東大震災の直後、保険金の即時支払を実施

- ▶ “お客様との約束を守る”という信念を貫き、保障責任を全う



本店を出発する臨時保全課員

- 戦後、家族を失った方々を多く採用し、雇用を創出



昭和の営業活動風景

- ご契約者様向けサービス「ずっともっとサービス」において、貯まったサンクスマイルを社会貢献に寄与する団体へ寄付できる仕組を構築（あしなが育英会や日本赤十字社等）

- 「出前授業」・「受入授業」の展開

- 企業主導型保育所の全国展開

創業

1920年代～

1950年代前半～

1993～

2010～

2017～

2030

## 児童・青少年の健全育成に向けて

次代を担う子どもたちが自身の人生設計について考え、人生をきり拓いていく力を養う次世代支援として、2011年から中学生・高校生向けに「出前授業」「受入授業」を展開しています。（8年間累計で、580校・57,826名に実施）

また、自身の将来設計を考える教材や保険の仕組の大切さ等をまんがでわかりやすく説明する本を作成し、ご要望のある学校へ提供しています。

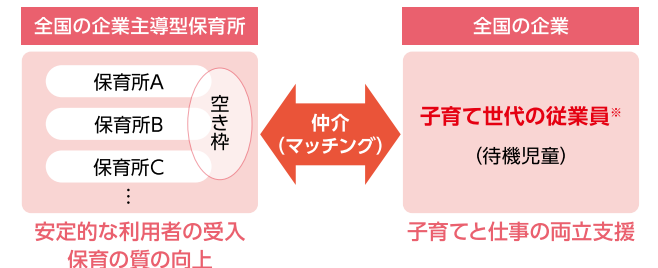
今後も、次世代支援に資する取組を進めていきます。



## 子育てと仕事の両立可能な社会の実現に向けて

子育てと仕事を両立できる環境を整備し、社会的課題である待機児童問題の解決に貢献すべく、保育領域への取組を展開しています。2017年4月から（株）ニチイ学館と協働で企業主導型保育所を展開し、全国約100カ所の設置に向けて対応を進めています。（2019年には全都道府県83カ所設置済）

また、企業主導型保育所領域における当社の貢献を一層進め、安定稼働が課題の企業主導型保育所と保育所探しに悩む子育て世代の企業の従業員を仲介すべく、（株）グローバルキッズと業務提携契約を締結しました。当該サービスの拡充に向けて、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターや（株）ベネッセコーポレーションとも連携し、子育て世代に寄り添った取組の検討を進めていきます。



※サービスを利用するためには、個別企業でご契約いただく必要があります。



# 世界に誇る健康・長寿社会の構築

## ー健康寿命の延伸に資する取組ー

日本社会においては、「人生100年時代」を迎える中、健康寿命と平均寿命には男性で約9年、女性で約12年の差※があり、健康寿命を延ばしていくことが社会課題となっています。

当社は、これまで、死亡保障に始まり3大疾病保障保険等の生きるための保険、高齢社会への対応やお客様の健康支援等、商品・サービスの拡充を行ってきました。

今般、「人生100年時代」を生きる一人ひとりが安心して自分らしく過ごせる社会づくりをサポートするとともに、健康寿命の延伸に貢献すべく、「世界に誇る健康・長寿社会の構築」をテーマに掲げました。

実現に向けて、取組を進めてまいります。

※【出典】厚生労働省「平成28年版厚生労働白書」



## 商品の提供を通じ、 安心して自分らしく過ごせる社会づくりをサポート

「人生100年時代」を迎え、お客様・社会のニーズが多様化している中、長生きのための保険「ニッセイ長寿生存保険（低解約払戻金型）「Gran Age」、生活習慣病等に備える保険「ニッセイみらいのカタチ 特定重度疾病保障保険「だいじょうぶ」、高齢世代になるにつれ高くなる入院リスクに一時金で備える保険「ニッセイみらいのカタチ 入院総合保険「NEW in 1」等、「人生100年時代」を安心して自分らしく過ごすためにご活用いただける様々な商品を提供しています。

今後も、お客様のライフステージやニーズの変化にあわせて、そのときどきのお客様にぴったりの保障を提供すべく、様々な商品ラインアップをご用意することで、お客様の一生をサポートし続けていきます。

ニッセイ長寿生存保険（低解約払戻金型）  
**Gran Age**

みらいのカタチ  
**だいじょうぶ**  
特定重度疾病保障保険

みらいのカタチ  
**NEW in 1**  
入院総合保険

## 健康増進支援取組を通じた健康寿命の延伸に向けて

「人生100年時代」を迎える中、当社は国民の健康寿命延伸に向け、様々なサービスを提供しています。

2018年4月から、(株)野村総合研究所および(株)リクルートライフスタイルと共同で、「ニッセイ健康増進コンサルティングサービス (Wellness-Star ☆)」を提供し、データヘルス計画や健康経営を支援するコンサルティングサービス等の幅広いサービスをご用意しています。

また、がん簡易検査の提供や、認知症対策スキルの提供、糖尿病予備群向け予防プログラムの開発等、予防・早期発見支援等に資するサービスを提供しています。

**Wellness-Star ☆**  
ニッセイ健康増進  
コンサルティングサービス  
(Wellness-Star ☆)

**Saliva Tech**  
がん簡易検査の提供  
[左:「おうちでドック®」(郵送による簡易キット)]  
[右:サリパテッカー-(株)サリパテック提供]

ニッセイ脳トレ  
for  
amazon alexa  
認知症対策  
スキルの提供  
「ニッセイ脳トレ」

**OMRON**  
**MICIN**  
**FUJIFILM**  
糖尿病予備群向け予防プログラム  
トライアルの展開  
[オムロンヘルスケア(株)・(株)MICIN・  
富士フイルム(株)等とのパートナーシップ]



# 持続可能な地球環境の実現

## －気候変動問題への取組－

近年、地球温暖化により自然災害が頻発する等、気候変動がまさに喫緊の課題となる中、2015年にCOP21（気候変動枠組条約第21回締約国会議）でパリ協定が採択されました。当社は、生命保険業を行うことに伴う紙・電力使用による環境負荷を低減するため、これまで、森づくり等の森林資源保護に加え、省資源・省エネルギーや資産運用を通じた取組等、あらゆる分野で環境を意識した行動に努めてきました。今般、企業の社会的責任を果たし、かけがえのない地球を次世代へ継承すべく、「持続可能な地球環境の実現」をテーマに掲げました。実現に向けて、CO<sub>2</sub>排出量削減目標を設定し、気候変動問題への取組を進めてまいります。

### 環境取組を通じた地球環境への貢献

- 環境問題研究への助成を開始（日本生命財団）
  - ➡ 研究成果について、シンポジウムや出版物を通じて社会へ還元

- 「ニッセイ100万本の植樹活動」を開始
  - ➡ 2002年に達成し、「ニッセイ未来を育む森づくり」として継続展開

- 「約款」・「ご契約のしおり」のオフィシャルホームページでの提供等に伴う紙使用量削減
  - ➡ 2012年4月：「約款」のCD-ROMでの提供
  - ➡ 2018年4月：「約款」のオフィシャルホームページでの提供
  - ➡ 2019年10月：「ご契約のしおり」のオフィシャルホームページでの提供

- 営業用不動産のZEB Ready認証取得
  - ➡ 環境負荷低減を推進

- CO<sub>2</sub>排出量削減目標を設定
  - 2030年度40%削減、2050年度80%削減
  - ※基準年は2013年度

1979～

1992～

2002～

2018～

2030

### “ニッセイの森”を通じた地球環境への貢献

かけがえのない地球環境を次世代へ引き継ぐことを願い、（公財）ニッセイ緑の財団とともに、1992年から森づくりを開始しています。これまでに植えた苗木は136万本を超え、“ニッセイの森”は46都道府県194カ所にまで広がっています。また、苗木代や活動経費については、従業員等からの寄付によりまかなっており、この活動に役員・職員がボランティアとして参加することで環境意識の啓発につなげています。

なお、“ニッセイの森”によるCO<sub>2</sub>吸収・固定効果（2018年度単年分）は、約1,684t-CO<sub>2</sub>です。（林野庁試算ベース）



ニッセイ富士の森 第1回植樹地



植樹活動の様子（1992年）



育樹活動の様子（2018年）

### 営業拠点の省エネルギー化を通じた環境への貢献

2018年7月に、新築の小山支社結城営業部が当社初となるBELS<sup>※1</sup>の最高ランクにおけるZEB Ready<sup>※2</sup>認証を取得しました。

今後、建物の老朽化等により新築する営業拠点は、原則すべてZEB Ready水準にて建設し、更なる環境負荷の低減を目指します。



小山支社結城営業部 外観

※1 Building-Housing Energy-efficiency Labeling Systemの略称で、国土交通省が定めた「建築物の省エネ性能表示のガイドライン」に基づき、建築物の省エネ性能を第三者機関が客観的に評価し、5段階で表示する制度です。

※2 ZEBはnet-Zero Energy Buildingの略称。ZEB ReadyとはBELS評価時に付与されるグレードの一つで、快適な室内環境を保ちながら、高断熱化・日射遮蔽、高効率設備等により、一般的な建築物に比べて50%以上の省エネルギー性能であると認められる建築物に付与されます。



# SDGs達成を後押しするESG投融資

## ー 資金提供やスチュワードシップ活動を通じた社会・企業行動への働きかけー

当社は従来から、生命保険事業の使命や公共性をふまえ、資産の運用において、環境や地域・社会と共生し、経済・企業と安定的な成長を共有していく観点から、環境問題の解決や社会貢献に資する投融資を積極的に実施してきました。

また、パリ協定やSDGsなど、世界が持続可能な社会の実現に向けた取組を進めていく昨今の流れをふまえ、ESG投融資を強化しています。

今後も、機関投資家として、引き続き気候変動への対応やSDGsに掲げる様々な目標の達成に向けて、資金提供の面から支援することで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



## 資産運用を通じた持続可能な社会形成に向けて

7,000億円のESGテーマ投融資の数量目標設定のほか、投融資判断にESG的要素を加味するインテグレーションやESG課題も含め対話を行うエンゲージメント等、様々な投融資手法を活用し、ESGに関する投融資活動を推進しています。

| ESG投融資の基本的考え方 | 持続可能な社会への移行と運用収益確保の両立を目指す     |                 |                 |                                         |
|---------------|-------------------------------|-----------------|-----------------|-----------------------------------------|
| ESG投融資の手法     | テーマ投融資                        | インテグレーション       | エンゲージメント        | ネガティブ・スクリーニング                           |
|               | SDGsに掲げる様々な目標達成に向けた資金提供面からの支援 | 投融資判断にESG的要素を加味 | ESG課題も含めた建設的な対話 | クラスター弾製造企業等への投融資禁止、石炭火力発電事業への新規投融資の原則禁止 |

## 主なESG投融資事例

下記SDGsのロゴは、当社が投融資を通じて貢献につながると考える主なゴールです。

### ▶ 海外農地ファンドへの投資(2018年4月)



提供：ハンコック・ナチュラル・リソース・グループ

食料の安定供給、農家の収入安定化、環境に配慮した農地運営等により、「食の安定供給」に貢献するものです。



### ▶ 豪州での陸上風力発電プロジェクトへの融資(2018年12月)



陸上風力施設の運営に活用され、豪州における「再生可能エネルギーの活用拡大」を支えるものです。



### ▶ 環境に配慮した不動産投資

ビルの新築や設備更新の際に省エネルギーに資する設備の導入等を積極的に行っており、日本生命丸の内ガーデンタワーが環境・社会への配慮がなされた不動産として、2015年度にLEED-CS(テナントビル版<sup>※</sup>)の「本認証(ゴールド)」を獲得しています。

※[LEED-CS(テナントビル版)]とは、米国グリーンビル協会が主催する世界で最も普及している環境指標の1つである[LEED(Leadership in Energy & Environmental Design)]のうち、CS部門(Core & Shell)を指し、テナント用ビルが当該部門に該当します。



## サステナビリティ経営の根底に流れる 共存共栄・相互扶助の精神を受け継ぐ社会貢献活動

生命保険業は相互扶助の精神にもとづく公共性を有する事業です。創業当初、保険に加入されたお客様に「被保険者証票」を交付し、これを提示すれば無料で受診できる制度を導入していました。また、コレラなどの疫病が猛威を振るう中、予防パンフレットを契約者以外の方々にも配る等、健康増進・衛生観念の普及にも注力していました。このように、当社は、お客様との長年にわたる約束をしっかりとお守りする使命を果たすことに

加え、お客様の暮らす社会が健全で豊かなものであるために努力することが社会的責任であると考え、創業以来、社会貢献活動に積極的に取り組んできました。

現在では、創業当初の想いを継承し、全役員・職員が社会貢献活動に取り組む「ACTION CSR-V ～7万人の社会貢献活動～」を展開し、持続可能な社会づくりに向けた当社のサステナビリティ経営の原動力となっています。

### 地域の清掃活動

事業所周辺の清掃活動を定期的を実施しています。また、海ごみ問題等をふまえ環境省と（公財）日本財団が実施する共同事業「海ごみゼロウィーク」にも各地で参加しました。



「海ごみゼロウィーク」での地域清掃  
(大阪府大阪市)

海岸清掃(神奈川県藤沢市)

### 障がい者スポーツ ボランティア・観戦

多くの職員が、積極的に障がい者スポーツの観戦やボランティアに参加しています。



障がい者卓球大会でのボランティア  
(福島県本宮市)

### フードバンクへの寄贈

災害備蓄品等をフードバンクへ寄贈する等、貧困課題へ取り組んでいます。



フードバンクへの寄贈の様子  
(山梨県南アルプス市)

### がん検診受検率向上に向けた取組

自治体の提供する「がん検診」の受検率向上に向け、当社職員が各自治体の提供する情報を、地域の方々にお伝えしています。



がん検診等の健康情報を提供している様子  
(静岡県駿東郡長泉町)



### 夏休みキッズセミナー

来店型店舗のニッセイ・ライフプラザにて、子どもたち向けに、保険の仕組みや大切さ、地球温暖化を防ぐ役割を担う森のはたらき等を楽しく学ぶセミナーを開催しています。



キッズセミナー  
(左：大阪府堺市、右：北海道札幌市)

### 植樹・育樹活動

全国194カ所に広がる“ニッセイの森”で植樹・育樹活動に取り組んでおり、その苗木代や活動経費も寄付によりまかっています。また、この活動を通じて、環境啓発にも繋がっています。



植樹活動(宮城県岩沼市)

### 振込詐欺防止に向けた取組

振込詐欺防止に向け、警察本部等と連携し、お客様に「振込詐欺防止ビラ」をお配りする等、情報提供をしています。



振込詐欺への注意点を説明している様子  
(佐賀県佐賀市)

### 熱中症予防に向けた取組

環境省が推進している「熱中症予防声かけプロジェクト」に賛同し、全国各地で熱中症予防の声かけ活動を実施しています。



自治体が主催する熱中症予防イベント  
(岐阜県多治見市)



# 公益財団法人を通じた社会貢献活動

当社の社会貢献活動は、本業と関わりの深い医療分野からスタートし、その後めまぐるしく変わる社会・環境の変化を捉えて、児童・青少年の健全育成、文化振興、地球環境と、その範囲を拡げてきました。

こういった取組をより一層推進すべく、5つの公益財団法人を設立し、今後も各財団法人とともに、「医療・高齢」「児童・青少年」「文化」「環境」等の各分野で、社会へ貢献してまいります。

医療  
高齢

## 日本生命済生会

『済生利民(生命・生活を救済し、人々のお役に立つ)』を基本理念に、当社の社是である「共存共栄・相互扶助」を実践する場として、当財団は1924年に設立されました。

済生会が運営する「日本生命病院」は、2018年4月に新築移転・開院し、地域医療・救急医療・女性医療の強化や最新の医療機器の導入、健康寿命の延伸に向けた予防と医療の融合等、医療サービスの更なる充実を図っています。



日本生命病院 外観

医療  
高齢児童  
青少年

環境

## 日本生命財団

「人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資すること」を目的として、当財団は1979年に設立されました。

さまざまな社会課題をふまえ、特に社会的要請が高い「児童・青少年の健全育成助成」「高齢社会助成」「環境問題研究助成」の3つのテーマへ取組み、設立以来の累計助成実績は、約170億円、約18,000件となります。

助成成果については、シンポジウムの開催等を通じて広く社会へ還元しています。



こばと鼓笛隊(石川県) [助成物品:楽器一式]

医療  
高齢

## ニッセイ聖隷健康福祉財団

高齢者が健康で安心して暮らせるまちづくり事業を具現化すべく、当財団は1989年に設立されました。

現在、総合シルバーサービス施設「ニッセイエデンの園」※を開園し、有料老人ホーム、疾病予防運動センター、高齢者総合福祉センター等を整備し、地域に根差した活動を進めています。

また、介護福祉士等の福祉を担う人材の育成にも注力し、奨学金助成を実施しています。

※奈良:1992年開園、松戸:1997年開園



奈良ニッセイエデンの園(有料老人ホーム外観)

児童  
青少年

環境

## ニッセイ緑の財団

当社の業務は大量の紙資源を使用することから、森林資源保全への貢献のため、1992年に森づくりをスタートしました。この動きを当社だけにとどめず、森林の保護・育成・環境保全の活動へと拡げるべく、当財団は1993年に設立されました。

現在では、194カ所に広がった“ニッセイの森”の植樹・育樹活動を行うとともに、小学生等の児童を対象とした環境教育や間伐材を活用した「樹木名プレート」を学校等へ寄贈する等、環境意識啓発・環境保全活動を通じて地球環境へ貢献しています。



“ニッセイの森”での育樹活動(大分県由布市)

児童  
青少年

文化

## ニッセイ文化振興財団

児童文化の振興を目的に「ニッセイ児童文化振興財団」は1973年に設立され、その後、1993年に現在の名称へ変更し、幅広く舞台芸術の提供に力を入れています。

ご家族で舞台芸術に触れていただく「日生劇場ファミリーフェスティバル」やオペラ公演「NISSAY OPERA」を上演する一方で、「ニッセイ・バックステージ賞」を設け、優れた舞台技術者を表彰するなど、舞台芸術を支える人材の育成に取組んでいます。

また、子どもたちの豊かな情操を育むことを願い、当社が協賛する「ニッセイ名作シリーズ」に、児童・青少年を無料招待しています。

日生劇場ファミリーフェスティバル2018  
ダンス×人形劇「エリサと白鳥の王子たち」  
(撮影:三枝近志)



# 主なステークホルダー・推進体制

## サステナビリティ経営の考え方

当社は、経営基本理念にもとづき、生命保険事業は、お客様ひいては国民生活、そして社会を支える使命を帯びた公共性の高い事業であるという認識のもと、企業活動を行っています。また、様々なステークホルダーとの対話を通じて、社会からの期待や社会的課題に対する認識を深めるとともに、あらゆる企業活動においてバリューチェーン全体を通じて“安心・安全で持続可能な社会”の実現に貢献し、企業価値の向上を目指します。

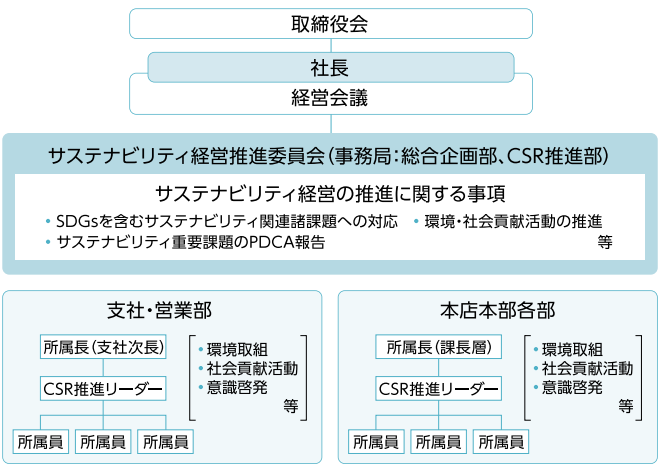
取組にあたっては、ステークホルダーからの期待と当社事業との関連性の両軸から選定した18項目の「サステナビリティ重要課題」に重点を置き、サステナビリティ経営を推進してまいります。(サステナビリティ重要課題についてはP.05-06 参照)

## 日本生命の主なステークホルダー

| ステークホルダー  | 概要                                                             |
|-----------|----------------------------------------------------------------|
| お客様       | 当社には、1,188万名、25.0万企業のお客様がいます。                                  |
| 地域・社会     | 当社は、地域・社会と共生し、全国各地で事業を展開しています。                                 |
| 投資家       | 当社は、株式会社の資本金にあたる「基金」等を投資家から調達しています。                            |
| 取引先・提携先   | 税理士、保険専門代理店、提携金融機関など、1.8万店の代理店がいます。また、様々な企業や団体と提携し、事業を展開しています。 |
| 投融資先      | 国内外の様々な企業に投融資を行っています。保有不動産には、様々なテナント企業に入居いただいています。             |
| 行政・自治体    | 行政による監督・管轄を受けています。また、全国の都道府県や市町村と連携協定を結んでいます。                  |
| NPO・業界団体等 | 様々なNPOと提携しています。また、業界団体に所属し、共に活動しています。                          |
| 従業員       | 当社には7万人の従業員がいます。                                               |

## サステナビリティ経営推進体制

2018年度から、経営会議の諮問機関として「サステナビリティ経営推進委員会」を立ち上げ、SDGsを含むサステナビリティ関連諸課題への対応や、サステナビリティ重要課題のPDCA報告等を付議し、サステナビリティ経営を推進しています。また、支社や本店本部各部に、CSR推進リーダーを配置し、所属長のもと、節電や省資源、社会貢献活動を含むサステナビリティ関連諸課題に関する取組を推進しています。



## エスディージーズ SDGs(持続可能な開発目標)とは

SDGs(持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals)とは、2015年9月に国連総会で採択された、2030年までに達成を目指す17の目標です。「貧困」「健康と福祉」「ジェンダー平等」「働きがい」「気候変動」等、あらゆる国で取組む目標です。



1 貧困をなくそう

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

2 飢餓をゼロに

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

3 すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

4 質の高い教育をみんなに

すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

5 ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

6 安全な水とトイレを世界中に

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

8 働きがいも経済成長も

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

10 人や国の不平等をなくそう

各国内及び各国間の不平等を是正する

11 住み続けられるまちづくりを

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する

12 つくる責任つかう責任

持続可能な生産消費形態を確保する

13 気候変動に具体的な対策を

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

14 海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

15 陸の豊かさも守ろう

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

16 平和と公正をすべての人に

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

17 パートナリシップで目標を達成しよう

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



# 社外からの評価

|                                                          |
|----------------------------------------------------------|
| サステナビリティ・CSR全般<br>東洋経済「CSRランキング」2019<br>金融部門第2位(東洋経済新報社) |
|----------------------------------------------------------|

## お客様／地域・社会

### 商品・サービス

|                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| ニッセイみらいのカタチ特定重度疾病保障保険<br>「だい杖ぶ」(だいじょうぶ)<br>第29回 読者が選ぶ「ネーミング大賞」(2018年度)「大賞」<br>(日刊工業新聞社) |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------|
| 対面販売における契約申し込み手続き電子画面<br>UCDAアワード2018(生命保険分野)<br>(一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会) |
|--------------------------------------------------------------------------------|

### 地域・社会

|                                                                  |
|------------------------------------------------------------------|
| 社会貢献活動全般<br>平成30年度 東京都共助社会づくりを進めるための<br>社会貢献大賞 企業部門「大賞」<br>(東京都) |
|------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域と共生をコンセプトとした日本生命病院<br>第8回みどりのまちづくり賞<br>「大阪府知事賞(ランドスケープデザイン部門)」<br>(大阪府／公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会／<br>一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部) |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 資産運用

|                                                                |
|----------------------------------------------------------------|
| ESG投融資取組全般<br>2018年(第4回)サステナブルファイナンス大賞「大賞」<br>(一般社団法人環境金融研究機構) |
| 環境大臣賞<br>「ジャパン・グリーンボンド・アワード<br>ジャパン・グリーンインベストメント部門」<br>(環境省)   |

## 従業員

### ダイバーシティ推進

|                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------|
| ダイバーシティ推進に関する取組<br>平成30年度「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」<br>市長表彰「優秀賞」<br>(大阪市) |
|---------------------------------------------------------------------|

|                                      |
|--------------------------------------|
| 第1回大阪府男女いきいき事業者表彰「男女いきいき大賞」<br>(大阪府) |
|--------------------------------------|

|                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------|
| 2018年版「女性が活躍する会社BEST100」<br>ダイバーシティ推進度第1位<br>(日経WOMAN 日経ウーマノミクス・プロジェクト) |
|-------------------------------------------------------------------------|

|                                         |
|-----------------------------------------|
| PRIDE指標2018 ゴールド受賞<br>(work with Pride) |
|-----------------------------------------|

### 健康経営推進

|                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 健康経営取組<br>健康経営優良法人2019(大規模法人部門)(ホワイト500)<br>(経済産業省/日本健康会議)<br>※健康経営は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|

## 環境

|                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------|
| 環境関係<br>環境ブランド調査2018 環境ブランド指数ランキング<br>金融部門：1位/30社<br>(日経ESG経営フォーラム(日経BP社)) |
|----------------------------------------------------------------------------|

## コーポレートガバナンス

|                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 資本市場発展への貢献<br>DEALWATCH AWARDS 2018<br>Innovative Debt Deal of the Year<br>(REFINITIV) |
|----------------------------------------------------------------------------------------|

## 会社概要 (数値は2019年3月末現在)

|         |                                                                   |         |                                                                                    |
|---------|-------------------------------------------------------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 名 称     | 日本生命保険相互会社                                                        | 事 業 所   | 支社等 108<br>営業部 1,533<br>海外事務所 4<br>代理店※ 17,493<br>※「代理店数」には、銀行等の金融機関<br>代理店等を含みます。 |
| 所 在 地   | 本 店：〒541-8501 大阪府大阪市中央区今橋3-5-12<br>東京本部：〒100-8288 東京都千代田区丸の内1-6-6 |         |                                                                                    |
| 代表取締役社長 | 清水 博                                                              |         |                                                                                    |
| 創 立     | 1889年7月4日                                                         | 子 会 社 等 | 保険および保険関連事業 21社<br>資産運用関連事業 50社<br>総務関連事業等 10社                                     |
| 従 業 員 数 | 73,260名                                                           |         |                                                                                    |

### 総資産

〔連結〕 78兆 8,095億円

〔単体〕 68兆 847億円

### 自己資本

〔単体〕 6兆 2,417億円

### 格付け (2019年7月1日現在)

|      |                                  |                                 |                                 |                                 |
|------|----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 〔単体〕 | AA                               | AA                              | A+                              | A1                              |
|      | 格付投資情報センター<br>(R&I)<br>(保険金支払能力) | 日本格付研究所<br>(JCR)<br>(保険金支払能力格付) | S&Pグローバル<br>(S&P)<br>(保険財務力格付け) | ムーディーズ<br>(Moody's)<br>(保険財務格付) |

|      |                          |                                                                                                                |
|------|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 格付水準 | 上位ほど保険金を支払う能力が高いとされています。 | R&Iの定義「AA」<br>http://www.r-i.co.jp<br>保険金支払能力は極めて高く、優れた要素がある。                                                  |
| AAA  |                          | JCRの定義「AA」<br>http://www.jcr.co.jp<br>債務履行の確実性は非常に高い。                                                          |
| AA   |                          | S&Pの定義「A」<br>http://www.standardandpoors.co.jp<br>保険会社が保険契約債務を履行する能力は高いが、上位2つの格付けに比べ、事業環境が悪化した場合、その影響をやや受けやすい。 |
| A    |                          | Moody'sの定義「A」<br>http://www.moodys.co.jp<br>中級の上位と判断され、信用リスクが低い債務に対する格付。                                       |
| BBB  |                          |                                                                                                                |
| BB   |                          |                                                                                                                |
| B    |                          |                                                                                                                |
| ⋮    |                          |                                                                                                                |

格付けとは、第三者である格付会社が、保険会社の保険金を支払う能力等に対する確実性を評価したものです(保険金支払等について保証を行うものではありません)。

※ 格付けは、取得日現在までの数値、情報にもとづいており、将来的には変化することがあります。  
※ 格付けは、詳細な情報にもとづき、より適正に評価していただくため、当社が正式に依頼してR&I、JCR、S&P、Moody'sから取得したものです。  
※ 格付けに付加されているプラス記号(+)、マイナス記号(-)、および数字記号は、それぞれ格付けカテゴリ内での相対的な強さを表します。



“大切な人を想う”のいちばん近くで。



NISSAY

日本生命



日本生命は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています



見やすいユニバーサル  
デザインフォントを  
採用しています。